



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 平成24年度昭和大学卒業式・学位記 伝達式開催される

歯学部長 宮崎 隆



平成24年度昭和大学卒業式が、去る3月19日(火)に五反田の「ゆうぼうとホール」において執り行われました。式は午前10時に昭和大学管弦楽団の演奏で開会しました。校歌斉唱に引き続き、各学部の総代に片桐学長から学位記が授与されました。歯学部31回生92名の総代は塚崎雅之君でした。引き続き学長から「至誠一貫の精神を忘れず、各分野の医療人として、真に社会奉仕するようにと」告辞がありました。小口理事長からは「卒業は出発であり、今後も研鑽をつんで社会のリーダーになって欲しい」と祝辞がありました。

各種表彰に移り、歯学部関係では、上條賞を塚崎雅之君、同窓会賞を小川綾野さん、田中里美さん、若林 慧さん、そして上條旗ヶ岡賞を弓道部の栗谷未来さんが受賞しました。稲垣父兄会長から卒業生に激励の挨拶と記念品贈呈がありました。在校生送辞と卒業生答辞のあとに、卒業生代表の馬場 聖君(歯学部)のリードで、昭和大学関係者全員で「昭和大学宣言」を高らかに唱和しました。卒業の歌(揚げば尊し)斉唱のあと、最後に恒例となった応援指導部による卒業生へのエールがあり、11時40分に閉会しました。引き続き各学部に分かれて午後1時から、歯学部は旗の台校舎4号館500号室において、学位記伝達式が執り行われました。宮崎歯学部長、岡野病院長、飯島同窓会長の挨拶に引き続き、卒業生全員に宮崎歯学部長から学位記が伝達され、引き続き学生表彰、記念品贈呈および花束贈呈を行い、上條学生部長の挨拶で午後2時に閉式しました。

学生表彰者は以下の通りです。歯科医学生賞: 伴田みさと、中村浩崇、森田奈那、学生部長賞: 矢島祥助、教育委員長賞: 陣之内 望、デンツプライ賞: 吉直大祐、大秋佳子、歯科補綴優秀賞: 内田景子、陣之

内正俊(敬称略) 卒業生代表の中村浩崇君から大学に記念品としてパソコン、カメラ、プロジェクターほか贈呈されました。卒業生諸君には、配布された卒業までのロードマップを忘れず、コンピテンシーを折りに触れては読み返し、今後各方面で活躍されることを祈念します。

## 謝恩会が行われました

教育委員長 井上美津子

昭和大学歯学部第31期生の謝恩会は、平成25年3月19日(火)に卒業式、学位伝達式が行われた後、帝国ホテルにて開催されました。

卒業生とご父兄の拍手と歓声に迎えられて、講師、准教授、教授の順で入場し、最初に宮崎学部長のご挨拶があり、教育委員長、飯島歯学部同窓会長の挨拶が続き、岡野病院長の乾杯の音頭で祝宴に入りました。医学部の謝恩会から駆けつけていただいた小口理事長、片桐学長など来賓の方々からのご祝辞をいただき、卒業生から先生方への花束の贈呈が行われました。また、今年度で定年退職する岡野、山田、向井3教授からのご挨拶がありました。恒例になった先生ランキングでは、「授業のわかりやすい先生」「熱意のある先生」など多くの先生方が表彰され、会場での記念撮影のあと、会はお開きになりました。

今年は卒業式と歯科医師国家試験の合格発表が重なり、謝恩会も悲喜交々という状況がみられました。今回の全国での合格率は71.2%とほぼ昨年同様であり、本学の合格率は80.7%で全国29大学中13位(昨年13位)、私立17大学中3位(昨年4位)という成績でした。とくに既卒者の合格率は全国でもトップでした。卒業生の皆様には、昭和大学歯学部を卒業したことに誇りを持ち、日々研鑽を重ねて立派な歯科医師になっていただきたいと思います。また今回の国試で残念だった皆様には、気を取り直して次の国試に向けて意欲的に学習していただきたいと思います。



## 定年を迎えるにあたって

歯科薬理学講座 山田庄司

平成25年3月末日をもって長年勤めさせていただきました昭和大歯学部を定年退職することになりました。昭和大には31年間在籍させていただきましたが、その間多くの先生方のご指導やご支援により大過なく退職を迎えることができましたことを深く感謝いたします。



私が最初に昭和大を訪れたのは東京医科歯科大学を卒業した昭和48年に歯科医師国家試験を受験したときでした。その時は意識していませんでしたが、思い返してみれば試験会場は昭和大であったと記憶しております。

卒業後は東京医科歯科大学の小椋秀亮教授のもとで歯科薬理学を専攻し昭和52年に大学院を修了しました。この年に昭和大歯学部が開設され、初代歯学部長になられたのが、東京医科歯科大学に薬理学講座を創設された岡田正弘先生で、東京医科歯科大学の小椋教授をはじめ、昭和大歯学部歯科薬理学講座の姥山良雄初代教授やその後を継がれた松本章教授は皆、岡田門下生でした。昭和54年には歯学部第1期生の歯科薬理学実習が医学部薬理学講座の先生方の全面的なご協力の下で始まり、私もイヌを使った呼吸血圧の実習をお手伝いさせていただいた覚えがあります。

こうしたご縁があって、昭和57年に松本章教授に招かれ、大学院設立のための指導教員として赴任することになりました。

昭和大に赴任して驚いたことが3つございます。一つ目は図書館が充実していること。東京医科歯科大学の図書館には当時、見たい論文の半分程度しかなく、他大学の図書館に通うこともしばしばでした。二つ目は父兄会があり、指導担任制と合わせて実にきめ細かな学生指導をしていることです。三つ目は事務の方々が学生に対しても教員に対してもとても親切に対応してくださることでした。とにかく昭和大は素晴らしい環境の整った大学でした。

最後に、長きにわたり研究と教育の場を与えてくださった昭和大に心から感謝申し上げるとともに益々のご発展をお祈り申し上げます。

## 昭和大の思い出

口腔衛生学部門 向井美恵

昭和大に歯学部が設置された翌年の昭和53年4月に歯学部小児歯科学教室に助手として赴任し、歯科病院で佐々教授の下で小児と障害児の臨床および教育と研究を11年間行ないました。平成元年には口腔衛生に移籍して合わせて34年間にわたり昭和大



で過ごしました。その間に臨床では、歯学部の創設間もない時期に医学部との連携で昭和大口唇口蓋裂チームの立ち上げに参加、歯科病院の言語・摂食リハビリテーション診療室(後の口腔リハビリテーション科)への臨床参加、診療科の再編に伴ってスペシャルニーズ歯科センター障害者歯科での主に小児の摂食嚥下リハビリテーションの診療を担当しました。また、平成20年4月には口腔ケアを通じて昭和大に附属する各病院の患者のQOL向上とチーム医療の中核を担う医療人の育成を目的として「昭和大口腔ケアセンター」が設置され、初代センター長として、多分野の医療職の皆様と一緒に運営できたことには深く感謝しております。

学内の教育では、新教育カリキュラムの導入に伴う「社会と歯科医療コース」の新設、医歯薬保健医療の4学部連携教育、学部連携病棟実習及び地域医療実習などを担当しました。他大学との連携では8大学歯学部による文部科学省戦略的大学連携支援事業「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」の昭和大の事業実施担当者、また、昭和大が主幹の3大学歯学部による文部科学省 大学間連携共同教育推進事業「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」の分担作業などを経験することができました。

研究では、一貫して摂食嚥下機能の発達と障害の領域について臨床をサポートする研究を積み重ねてきました。昭和大だからこそその貴重な経験でした。平成24年の講座の再編に伴いスペシャルニーズ口腔医学講座の口腔衛生学部門で1年を経過したところで定年となりました。一緒に歩んでくださった教職員をはじめ多くの皆様、長い間本当にありがとうございました。

## 山田先生、向井先生、岡野先生および佐野先生の退職記念講演が行われました

昭和歯学会常任理事 中村雅典

本年度定年退職される4人の教授の退職記念講演を3月2、9日の両日、歯科病院第2臨床講堂で昭和歯学会特別例会として開催しました。2日は歯科薬理学講座の山田庄司教授と口腔衛生学部門の向井美恵教授にご講演いただきました。

山田先生は「慢性腎臓病（CKD）患者への歯科薬物療法」と題して、有病者に対してのこれからの歯学教育の方向性について貴重なご示唆を頂きました。向井教授は「摂食に関する機能発達の研究とそのあゆみ」と題して、これまでの先生のご研究の成果についてお話いただきました。先生の業績は国内外の学会の設立・発展並びに昭和大学での口腔ケアセンターの設立につながっています。

9日には地域連携歯科部門の佐野晴男教授と歯科放射線部門の岡野友宏教授のご講演が開催されました。

岡野先生は「歯科におけるX線検査適正化への道」と題し、ご専門の診断に最適なX線検査法確立のためのご自身のご研究とこれからの可能性についてお話いただきました。

佐野先生は「歯科における病診連携—昭和大学歯科病院での4年間を回顧して—」と題し、先生の昭和大学への赴任前と赴任後の4年間における臨床経験と臨床歯学教育を振り返り、昭和大学歯学部での将来に向けての臨床教育の優位性についても熱くお話いただきました。

山田先生と向井先生は30年以上、岡野先生は25年以上の長きに渡り昭和大学歯学部の教育、特に平成15年からの新カリキュラム作成と運営に熱心に取り組まれてきました。今日、昭和大学歯学部教育が全国から注目されるのは先生方のご努力の賜です。4人の先生が今年度でご退職されることは大変な痛手ですが、我々は先生方の臨床・研究・教育に対する情熱を肝に銘じ、精進して参ります。

## 第4回臨床実習終了時 OSCE (iOSCA) が実施されました

iOSCA 実行委員長 山本松男

3月14日、15日に第4回 iOSCA を実施しました。第1日目は旗の台1号館で医療面接およびバーチャルペーシェントによる患者情報の収集・診査診断・治療方針決定等に関する課題、第2日目は歯科病院地下1階スキルスラボにおいて、医療安全、外科・麻酔系、保存系、補綴系の技能系を中心とした課題を課しました。iOSCA では、例えば模擬カルテを確認した上でその時点でなすべき事を判断するなど、複数の知識と技術とが体系的に結びつき診療行為に至るこ

との理解と実施能力を評価します。臨床実習前に課せられる共用試験としての OSCE と大きく異なる点です。それらはコンピテンシー（本学歯学部卒業生が卒業時に有している臨床能力）として明確化され、臨床実習終了時にしっかりと評価をすべきと考えられています。超高齢社会の我が国において歯科医療環境は多様化しており、自己研鑽を生涯にわたり継続する事が求められています。本年度は将来の働き場である「地域」を代表し、近隣歯科医師会の先生方にも見学をしていただきました。双方の交流を密にして、より社会の実情に応じた内容を教育に反映できる事を期待しています。



## 昭和大学で高次臨床実習を行いました

岩手医科大学歯学部5年 後藤花奈

平成25年3月11日から15日の5日間、昭和大学歯学部歯科矯正学講座にて高次臨床実習をさせていただきました。

外来やオペの見学、介助、症例検討会の見学、教授診断の見学、講義などといった1週間のカリキュラムを立てていただき、指導医の先生の下で実習を行いました。CT や筋電図を用いた治療計画の立案や、インビザラインなど最先端技術を用いた治療、そして患者さんの多さに驚きました。口唇口蓋裂をはじめとする先天性疾患の患者さんが多く来院されていて、形成外科や口腔外科と密に連携し治療を行っていたのが非常に印象的でした。

また、先生方が行なっている研究のお話を聞かせて頂く機会がありましたが、とても興味深く「考え、探求することの面白さを」知ると共に自分の視野を広げることができたように思います。

このように昭和大学では自校とは異なる実りの多い充実した実習をおこなうことができました。御指導頂いた昭和大学歯学部歯科矯正学講座の先生方に心より感謝致します。ありがとうございました。

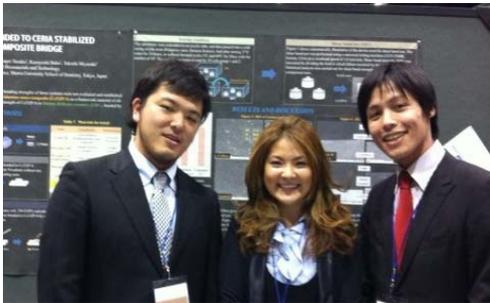


## IADRで発表しました

大学院3年(歯科理工学専攻) 佐藤康太郎

3月19日～23日に開催されたIADR general session2013にてポスター発表しました。アメリカ合衆国のシアトルコンベンションセンターで本大会は開催され、アメリカやブラジル、日本や韓国をはじめとしたアジア諸国やドイツなど世界各国から参加者が大勢訪れていました。ポスター発表に関しては背景がインドの町並みだったり、自画像を写真の代わりに張っている方がいたり、国内での学会発表との違いが興味深かったです。研修医時代の同級生や後輩とも再会できました。私はCAD/CAM関連の発表区分でしたが、周りの発表者のほとんどがブラジルの方で、経済成長著しい国の勢いを感じました。CAD/CAMなどのデジタル技術によって歯科のグローバル化が進んでいる現在、今後の研究をしていく上での英語力の必要性を強く感じました。

シアトルはマリナーズのイチローで有名でしたが、急な坂が非常に多く、寒い小さな都市でした。スターバックス発祥の地とのことで限定品の袋を持った日本の先生を多く見かけました。発表の機会を得られたのは宮崎先生をはじめとする歯科保存学講座の先生方のおかげです。心より感謝いたします。また会場でお世話になった昭和大学の先生方にもこの場をかりてお礼申し上げます。



## 大学院修了式が行われました

大学院運営委員長 佐藤裕二

3月15日に上條講堂で昭和大学大学院修了式が行われました。医学研究科53名、歯学研究科28名、薬学研究科3名、保健医療学研究科13名に対して学位記が、助産学専攻4名に修了証が渡されました。歯学研究科では代表して受け取ったのは石川奈々さん(歯学研究科運営委員長賞も受賞)です。学長の告示、理事長の祝辞の後、各研究科長からの祝辞がありました。その後、代表として歯学研究科の相澤怜君(歯学研究科長賞も受賞)が前に出て、全員で昭和大学宣言を行いました。校歌斉唱の後、各研究科に別れて学位記を全員に授与し、記念撮影を行いました。これがゴールでは無く、研究者として、また、研究マインドを持った臨床家として新たなスタートを切ってくれることを期待しています。

## 平成25年度から電子シラバスが導入されます

教育委員長 井上 美津子

平成25年度より昭和大学の全学部および大学院のシラバスが電子化されます。かねてより準備はされておりましたが、本番入力の準備が整うのに手間取り、入力開始から締め切りまでに十分な時間を確保できず、教務課の皆様や担当の先生方にはお忙しい思いをさせてしまい申し訳ありませんでした。

3月18日に公開され、教務のポータルサイトと同様にログインできます。分厚い電話帳のようなシラバスでは携帯することも困難だったと思いますので、いつでもどこでも授業日程や内容などをチェックできる電子シラバスを活用いただきたいと思います。今後さらなる機能の追加により、有効活用できるよう考えていく所存です。

## 選抜Ⅱ期入試が実施されました

入試常任委員 長谷川 篤司

平成25年度歯学部選抜Ⅱ期・センターⅡ期・編入Ⅱ期入試が2月24日(日)に旗の台キャンパス16号館(面接の一部は1号館、4号館を使用)で実施されました。今回の志願者は、選抜Ⅱ期159名(前年度63名の2.52倍)、センターⅡ期11名(前年度8名の1.38倍)、編入Ⅱ期15名(前年度4名の3.75倍)と前年度に比べ大幅な増加がみられました。当日は交通機関等の乱れもなく定刻に試験が開始され、面接会場への移動時などのトラブルもなく無事終了しました。試験結果として、2月26日に選抜Ⅱ期8名、センターⅡ期2名、編入Ⅱ期2名の合格者を発表いたしました。これをもちまして平成25年度の入学試験日程はすべて終了となります。ご協力いただきました職員の皆さまに心からお礼を申し上げます。

## 受賞

広報委員長 井上富雄

2013 IADR/Unilever Hatton Divisional Award

昭和大学歯科補綴学講座 鈴木 航

## 行事予定

広報委員長 井上富雄

4月 1日(月):D2・D3・D4進級式 D3・D5健康診断  
4月 2日(火):D2・D6健康診断  
4月 3日(水):D4健康診断  
4月 6日(土):大学院入学式  
4月11日(木):入学式

## 編集後記

歯科補綴学講座 樋口大輔

三寒四温、桜の満開が過ぎ葉桜になってきました。年度末のご多忙の所、原稿を頂きました皆様に感謝申し上げます。 拝